

【おわりに】

庁舎建設整備事業では、昨年9月から12月までに全5回にわたり庁舎建設委員会が開催され、毎回、活発な議論が交わされるとともに、10月に実施しましたパブリックコメントでは、多くのご意見が寄せられました。11月には、「庁舎建設候補地及び庁舎建設基本構想に関する諮問事項」についての中間答申書が正副委員長から提出され、庁舎建設候補地には、大氷川地内の「JR青梅線奥多摩駅東側」の土地が選定されました。ただし、「アクセスに関して、踏切や坂道等、現状の課題があるため、これらの改善に努めること」が付記されました。

また、基本構想における基本理念では、「誰もが親しみやすく訪れやすい庁舎であるとともに、地域住民の安全、安心を確保するため、災害時には、危機管理

対応を果たす『防災拠点』としての機能、そして、地域コミュニティの活性化につながるような一人ひとりがイメージする『奥多摩らしさ』を併せ持つ庁舎を目指すこと」とされました。12月には、最終回となる第5回委員会において、最終答申に盛り込むべき提言内容の骨子が決まり、その後、「庁舎建設基本計画に関する諮問事項」についての最終答申書が正副委員長から提出されました。



▶左から松本委員長、町長、木村副委員長

最終答申の内容は、基本構想の考え方をより具体化するもので、「コスト面のみならず建設候補地の敷地特性を活かした庁舎の検討、多摩産材等の木材の積極的な活用の検討、庁舎完成後も町民等が関わりを持てる屋外スペースの確保と有効活用の検討、新庁舎へのアクセスに関して安全確保のために必要な道路（通路）整備の検討」などの提言が盛り込まれました。

今後は、現在実施中のパブリックコメントや3月17日の住民説明会を経て、3月末までに庁舎建設基本計画を策定し、アクセスに関して、安全面も含め、利用者目線にたつたうえで、JRを含む関係機関と協議・調整を行い、令和5年度以降、基本設計、実施設計作業を進めてまいります。

向し、自然豊かな奥多摩町を軸とした地域社会への貢献を図るため、今後、多摩大学との協議を重ね、多機能地域活性化拠点のオープンを目指すとともに、学生の若い力を借りながら、そして、地域皆様のご理解をいただきながら、引き続き、連携を図ってまいります。

そして、旧琴清苑跡地の活用では、クラブビル事業用地として、年内に醸造施設の稼働が開始できるよう、引き続き、協議・調整を重ねてまいります。この事業は、単なる事業拡大ではなく、町、VERTERRE（バテレ）合同会社及びJR東日本グループが相互に連携し、奥多摩町の新たなスポットとして、観光、経済、雇用そして税金といった様々な面で、地域にとっても有益な事業になるものと認識しており、事業の実現に向け、地域への説明も含め、具体的な取組

を進めてまいります。いずれにいたしまして、今後も民間事業者と連携を図りながら、町内に点在する空家や町有財産の有効活用にも積極的に取り組んでまいりますので、引き続き、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

重ねて、町民皆様、議員の皆様の一層のご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げます。令和5年第1回奥多摩町議会定例会の開催にあたっての、私の施政方針とさせていただきます。

